

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 2年 10月 18日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3474800376		
法人名	優輝福社会		
事業所名	グループホームみら屋		
所在地	広島県三次市三良坂町三良坂1789-2 (電話) (0824) 44-3008		
自己評価作成日	令和2年9月3日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3474800376-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和2年10月16日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者様本位の個別ケアと、田舎の自然の中で五感に積極的に働きかける取り組みをベースにしています。職員は利用者様のパートナーとして「一緒に大笑い 楽しい一日を有難う」を合言葉に、寄り添い 共に暮らしていく家族の様に、住み慣れた我が家となることを目指しています。また、地域の行事にも積極的に参加し、地域とのつながりを持ち続ける様に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

今年度から地域清掃活動を毎月取り組み、併設の小規模多機能の柔軟なサービス提供により、地域貢献活動を担っている。研修体制（新人研修や現任研修など）の充実に加え、法人全体の行動規範として「こうしようルール」を基に統一した支援方法の確立を図っている。地域交流や介護予防の一環として、年2~3回の認知症カフェを開催し、地域住民、家族などの参加があり、地域との関係性が定着している。一人ひとりの生活リズムに合った「本人主体」の介護支援がされている。食事面に関しても、適宜ホーム菜園で採れた野菜を新鮮なうちに調理し、食の楽しみと喜びを味わう取り組みをしている。利用者と職員同士が話しやすい雰囲気があり、1日2~3回の申し送りに加え、各種会議など話し合いを重ねることで利用者の想いを実現している。レクリエーションなど日々充実を図り、利用者の笑顔溢れるホームづくりを目指している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念をもとに、全職員が利用者と共に笑顔で生活している。	事業所内に掲示し、常に職員が意識出来るようにしている。毎日の申し送り時に法人全体の行動規範として「こうしようルール」を確認し、統一した支援方法の確立を図っている。各職員の自己評価を用いて、個人目標を作り上げ、理念と照らし合わせながら、実践されている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事、学校行事等には積極的に参加し地域に溶け込めるよう努めている。	地域行事（運動会、とんど祭り、清掃活動など）参加をしている。地域交流を図るため、認知症カフェを年2～3回開催し、地域住民や家族などの参加がある。チャレンジデー（健康ウォーキング）は、立ち寄り場所（休憩所）として、利用者と交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年度から地域清掃活動をはじめ、毎月1日実施している。地域の清掃活動には声をかけてもらうようお願いしている。民生委員・包括支援センター・社協・三良坂近辺の高齢者福祉事業所で構成されている「みらさか連絡会議」にも継続して出席し、困難事例について意見交換をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	小規模三良坂と合同で、2カ月に一回の運営推進会議には、ご家族代表、民生委員さん、支所の保健師さん、包括支援センター、高齢者福祉課、駐在さん等関係各所よりご参加頂き意見交換の場としている。現在コロナの関係で三次市の指導のもと資料配布にて報告としている。	家族代表、民生委員、地域包括支援センター、保健師、高齢者福祉課担当者などの参加を得て、併設の小規模と合同で開催している。今年度は、新たに駐在所職員へ参加を働きかけている。利用状況及び活動状況など報告する中で意見交換がなされている。	家族参加が代表者（2～3人）のみである。今後は、①やむを得ず不参加の家族へ議事録を送付する、②家族が参加できる行事案内、③再度会議の目的を説明、意見を抽出する方法など取り組み、より多くの家族が会議に参加することを期待したい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	全体的には法人本部が窓口となっている。運営推進会議や地域密着連絡会議などに三次市も出席され常に連絡は取っている。	全体的には法人本部が窓口となって対応している。利用者の状況により、市担当者とは随時連携を図っている。毎月、市主催の地域密着型会議で近隣の事業所の集まるなかで、情報交換などを行い、相互研鑽によりサービスの質の向上に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	法人内の研修や、各事業所ごとの現任者研修において「高齢者の虐待防止について」等の研修を実施していると共に、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	新人研修、現任研修など定期的な研修を通して、身体拘束を行わないことが当たり前のケアということが職員全員の認識となっている。利用者支援について疑問があれば、即話し合いを持つようにしている。3カ月毎の身体拘束委員会で更に意識を高めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	法人内の研修や、各事業所ごとの現任者研修において「高齢者の虐待について」等の研修を実施している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	法人内研修や外部研修で学んでいる。利用者様に後見人が付いておられ必要性や制度などが実践として理解できる場所もある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時 「契約書」「重要事項説明書」について理解できないことのないように十分説明し、同意を得てから契約していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関への意見箱を置いているがなかなか意見はない。平素よりご家族には状況報告等をしており現状が分からない事はなく、その都度ご意見もいただいている。ご要望に応じての対応も心掛けています。また、運営推進会議でもあらゆるご意見を頂き運営に反映できるよう努力している。	家族面会時に直接話を聴いたり、主に担当職員が家族との連絡など行っている。意見があった時は、生活記録や申し送りノートを活用し、1日2～3回の申し送りなどで話し合える体制を整えている。家族から、利用者の身だしなみのことで要望があり、即対応した例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年2回の人事考課も評価の方法を今回は自己評価とし、それに対し他者評価をし面談をしている。毎月の職員会議でもそれぞれの意見を言える様な機会を設けている。出た意見に対して他の職員と意見を出し合い情報の共有をしている。	例えば野菜作りなど、主に利用者支援についての話し合いが多い。広島県からプラチナ認定法人として、職員の育児休暇や介護休暇、メモリアル休暇（誕生日・法事など）など認定され、働きやすい職場づくりに力を入れている。年2回の人事考課、年1回のストレスチェックを実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	人事考課制度の導入により、個々の努力や実績が反映されるように努めている。「働き方改革実践企業認定」「魅力ある介護・福祉の職場宣言広島」プラチナ認定法人として、職員の育児休暇や介護休暇、メモリアル休暇などを推奨し認定される。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修・内部研修・新人研修。現任者研修など自分磨きに精進している。外部研修に行った職員が法人内で伝達研修を行う取り組みも実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	地域密着型サービス連絡会の継続で、あらゆる事業所との研修会には積極的に参加し自己研修にも努めている。職種別交流会では同じ問題や悩みを抱えている事がオープンに話せ、一歩前進と今後の働く意欲につながった。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前から本人と事前面接を行っている。入居後は新しい環境に一日も早く慣れて頂けるように声掛けし、コミュニケーション作りに職員全員で取り組んでいる。また、職員一人一人が傾聴に務め、本人の安心・安全を確保している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前から本人や家族との事前面接で、不安や困っている事、願い等伺い新しい環境に早く慣れて頂けるよう関わりを持っている。その都度状況の報告をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	現在の状況や本人・家族の思いを聞き状況に応じて必要な支援を調整し、法人全体でもサービス利用調整を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	「一緒に大笑い 楽しい一日を有難う」をモットーに、日々の生活を家庭での生活に近いものとし、昔の思いを大切に職員と入居者でなく家族の様に、共に支え合う関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	常に家族との連絡を取り、定期的に状況報告に努めている。そして、本人が安心して生活して頂けるようにご家族と共に協力し合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	近隣又は友人の方も訪ねて来られお話をしてくださる。馴染みの美容院への送迎をしたり、地域の行事にも声を掛けて頂き参加されている。	これまでの生活や大切にしてきた繋がりを尊重し、知人、友人の面会など旧知の関係性を紡いでいる。職員付き添いで、美容院への送迎、地元行事への参加、年賀状を送付するなど取り入れ、かけがえのない繋がりを大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士のコミュニケーションをとりやすいように職員が関わりを持ち、お互いが「ありがとう」と言える様な関係作りの支援を職員が行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	終了になられた方も行事の案内を送ったり、他機関との連携を図れるように支援したりする。利用終了後に他のサービスについて相談がある場合もある。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの生活歴を尋ね希望に添えるように、今までの暮らし方が継続出来るように努めている。本人の思いが難しい方でも、コミュニケーションを密にとり、出来るだけ本人の思いに添えるよう努める。	利用者と家族、職員との関わりを重要視している。生活歴や日々の関わり、レクリエーションの会話の中で、要望を把握できるように努めている。何事も本人本位で物事を考え、個々のライフストーリーを大切に、出来る限り希望に近づけるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の事前面接や聞き取り、入居後の生活の中でこれまでの生活歴等を尋ねたりしている。また、ご家族から出来るだけ生活の様子を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活記録や申し送り等で現状を把握している。一人一人の過ごし方も違い、その人に応じた生活も記録に残し状況把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>入居者にはそれぞれ担当職員が付き、介護支援専門員と担当職員が中心になってアセスメントをし、介護支援専門員が具体的な計画を作成している。</p>	<p>24時間シートの記録を用いて、生活習慣を把握している。今までの生活が継続できるように、本人の能力（洗濯物を畳む、掃除、農園、草取り、水やりなど）を活かしたプランとなるよう見直しを重ねている。月1回のモニタリングは、担当職員が詳しく記載をしている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>365日24時間の記録をし、職員間で情報の共有に努めている。状態によってはケース会議等をし介護支援専門員が本人の必要な支援に計画変更、職員は共有し個別支援をしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>状況に応じて法人内他のサービスも紹介したりして、本人らしい生活ができるように努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域資源はあるがなかなか難しく、協力して頂けるところから取り組んでいる。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>町内にかかりつけ医があり、週1又は月1往診に来ていただいている。希望や状態に応じて他の医療機関でも診療を受けられるように支援している。</p>	<p>今までの経緯から、以前からのかかりつけ医を主治医としている。主治医が遠方の場合、相談をして、近隣のかかりつけ医へ変更をする場合もある。事業所として、看護師が2人配置され、週1回又は月1回の医師の往診体制がある。事業所として適切な医療を受けられる体制づくりである。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>看護師の配置をし、日常の健康管理を行っている。また、主治医や他の医療機関との連絡を取り、受診や適切な対応が出来るよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院中 本人やご家族が安心できるように、地域連携室との調整や情報交換は介護支援専門員がしている。他の職員も様子伺い等している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>本人やご家族に「看取りの指針」を説明し意向を確認後支援している。近年も2名の看取りをしている。</p>	<p>新人研修、現任研修など定期的な研修を通して、職員全員の認識となっている。重度化に対する指針があり、入居時に説明を行っている。重度化した場合は改めて医師を交えて話し合い方針を決め、チームで共有し支援する体制がある。希望があれば家族の寝泊まりも可能としている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>法人研修の中で「救急救命講習」を受講したり、その都度職員会議や看護師が指導したりしている。夜間対応も待機職員を配置し、急変時等にも対応出来る様にしている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>年2回の避難訓練を一年12回毎月担当職員を変え実施している。夜間想定、水害、地震、火災等あらゆる想定で利用者だけでなく地域消防隊、地域住民、運営推進委員等の参加もしている。</p>	<p>具体的な行動計画により、年2回の避難訓練を年12回に、毎月担当職員を変え実施し、防災意識を高めている。運営推進会議での話し合い、消防団と連携を図り、何かあれば協力しあえる関係作りが出来ている。昨今の災害状況から、減災対策の取り組みで、7日分の備蓄を準備した経緯がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	法人内の「こうしようルール」を毎日朝礼で読み合わせ、人生の先輩として尊敬しプライドを損なわない様な対応や声掛けを心掛けている。	法人全体で職員の行動規範として、「こうしようルール」を作成し、毎朝項目を読み上げ職員に周知している。利用者一人ひとりを尊重し、受容、共感、傾聴の姿勢を大切に対応を行っている。接遇研修を定期的に行い、その人にあった声掛けなど行い、人格を尊重したケアが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	あくまでも職員が選択・決定するのではなく、本人の意思を尊重し依頼する言葉かけに務めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	併設の小規模利用者と毎日足浴やレク・散歩などを楽しまれるが、気分の乗らない時やしたくない時は本人の言われるようにお部屋でゆっくりされる。食事無理なく本人の状況に合わせている。それぞれのペースに合わせた支援に務めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	なじみの美容院へお送りしたり、お迎えに来てもらっている。外出困難な方は出張理美容にも来てもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	みらみら農園で皆さんが植えた野菜を収穫し、全部ではないが食材としている。季節を感じてもらうため時季に応じたおやつ作りを一緒にしている。野菜の皮むき等も皆さんで楽しくやってもらっている。嗜好調査も実施し、出来るだけ利用者の希望を取り入れられるようにしている。	嗜好調査を実施し、個々の希望、嚥下状態に応じた適切な対応方法を取っている。適宜、農園で取れた野菜を活用し、気分転換を図るため外食したり、利用者も下準備など職員と共同で行っている。月1回は、意見を取り入れた、お楽しみ献立を実施し、食事が楽しめる工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>現在は刻みの方のみだが、利用者に合わせSPなども提供していた。とろみが必要な方にはお汁・お茶・水・他の水分にはとろみをつけ提供している。日中の水分補給も6回はお茶・ポカリ・アクエリアス・しそジュース・ジンジャー・ジュース等飽きられないように工夫し水分補給に務めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアの声掛けをし、自力で出来ない方は介助し口腔内の清潔を保っている。毎晩ポリデント洗浄を実施している。毎週義歯入れ・歯ブラシ・コップ・などを消毒し天日で乾燥させ衛生管理をしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表を作成し、一人一人の排泄状況を参考に排便管理をしている。本人が意思表示されなくても失禁がある場合は排泄誘導をして、不潔・不快にならないように努めている夜間も意思表示のある方はその時に、ない方はパット交換やトイレ誘導をしている。</p>	<p>個々の排泄パターンを把握し、トイレに座る事を基本としたケアに取り組んでいる。オムツで入居された方もトイレ誘導する事で、オムツからリハビリパンツへ移行した事例もある。適宜の水分摂取に心掛け、軽い体操や散歩など行い、なるべく薬に頼らない方法で支援している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>排泄チェック表で申し送りをし、看護師の判断と医師の指示で対応している。水分調節や適度な運動も看護師の指示で実施している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>小規模との併設でお風呂は一か所なので個々の希望が100%取り入れられていない。職員は2人態勢で安心・安全であるが狭いこともあり満足ではないと思う。入浴されない方は毎日足浴を実施し、マッサージ実施にて水虫・浮腫等良好。</p>	<p>週2回（8：30～11：30頃）を目安に入浴を行っている。入浴日以外は、入浴剤や木酢液など活用し、毎日足浴、マッサージを実施している。足浴の効果から、水虫予防、下肢の浮腫などの軽減が図られている。なお、入浴後には水分補給をして頂いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>それぞれの居室でゆっくり休んでいただいたり、食堂ではソファを置きゆったりとした空間作りをしている。皆さんと談笑されたりテレビを見られたりと家庭のように生活されている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>お薬情報を全職員が周知しており、特変あれば看護師よりかかりつけ医に連絡し薬の変更となる。変更・追加などあれば申し送りや朝礼で報告・伝達する。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>梅のへたを取り切り込みを入れ、塩付けをし時期が来たらその葉をもみつけていただくことをし、昔を思い出したり季節を感じたりしているが、身体的に困難な方もおられる。その工程を出来ない方は見学しながら楽しんでおられる。草取りや花への水遣りは職員と一緒にやってもらっている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>お天気に合わせて外でティータイムをしたり、お散歩に出かけたりする。公用車の関係で車椅子の方は一人しか行けないがドライブなどにも出かけている。遠方の方の季節にあわせた寝具や衣類の入れ替えに、他の利用者もドライブを兼ねてご一緒する事もある。</p>	<p>主な年間外出計画を決めて外出をしている。事前に計画をしているが、気候や利用者の状態、公用車の手配が可能であれば、その都度外出をしている。敷地内の茶室への庭散歩や併設の小規模への訪問、地域の行事への参加やドライブ、外食など実施している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>本人がお金を持っていたと言われる方は、ご家族と話し本人もちとなっている。他の方は管理が出来ない方なのでご家族又は事業所で管理させていただいている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	携帯を持たれておられる方は、充電しっぱなしで使えない様子だがご家族の強い要望で持たれている。事業所の電話で近況を伝える時に本人さんと変わってお話をして頂くようにしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家庭に近い環境作りに務めているが、あらゆるところが古くなりその都度修理してもらい、利用者が不便にならないようにしている。不便と思われるところは職員が手を掛け修理したり利用者が使い勝手の良いようにしている。建物周辺の環境整備も職員全員で行い、ご家族・来客の方から不快感を招かない様に努力している。季節の花も利用者と植え季節感満載。	利用者同士が自由に過ごせるように、ソファやテーブル配置に安全に配慮しつつ、ゆったりとした時間を過ごせるようにしている。温度や湿度に気を付け、過ごしやすい環境を整えている。利用者が混乱しないように、トイレや部屋の目印など工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを増やしたこともあり好みのところで談笑されている。みんなで集まれるレクの部屋でソファに横になられたり、音楽を聴かれたり、テレビを見られたり自分で好きな居場所を選ばれる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時お気に入りの家具などをと話させて頂くが、最近あまり持ち込まれていない。お気に入りの押し車などは持参されている。ご家族が遠方から来られた時に泊まれるようにベッドが用意され、とても喜ばれている。	入居時に見学をお願いしている。居心地良く生活して頂くために、なるべく馴染みの物品などを準備し、室内への持ち込みは基本的には自由となっている。また今までの生活が継続できるように本人と家族と相談しながら、居室環境を工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人でも安心・安全と思えるように手すりを増やしている。玄関にも手すりをつけ玄関からの出入りも出来るようになった。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームみら屋

作成日 令和2年11月12日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	3	事業所としての地域貢献が不十分である	地域に根差したグループホームとして貢献する	○地域清掃活動の充実 ○地域会議への参加	1年
2	4	運営推進委員会等の報告を全家族に出来ていない	グループホームでの生活やあらゆる関わりの中でどの様にされておられるか、ご家族に報告する	○会議録の送付 ○参加を呼び掛ける(より多くのご家族に参加していただく)	1年
3	11	運営等においても職員の意見を聞けてない	全職員が運営に関わり意見を出しチームケアに努める	○全職員が意見を言いやすい環境作り ○皆がケアを共有する	1年
4	13	職員のレベル低下	職員のレベルアップ	○あらゆる研修を実施 ○事業所独自のケア研修を行い身につける	1年
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。